

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

1-1 経営環境の変化

1-2 企業の存立

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

## 1-1 経営環境の変化

### 1) 経営と個人の重点

#### 経営

- ・組織横断的なテーマによる課題解決
- ・「個人能力」に依存した活動の重視
- ・情報システムの事業基盤化の推進
- ・情報武装による競争力の強化

#### 個人

- ・個人の戦力化とプロ化の要求
- ・問題発見と問題解決ができる人材
- ・自己目標と事業目標の一体化
- ・リーダーシップ優先による目標達成  
(調整型より決断型へ)

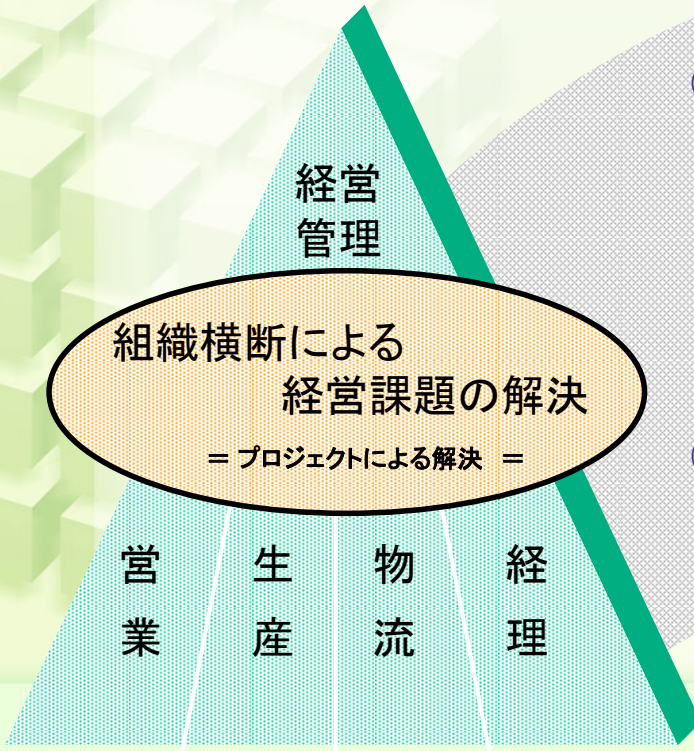
プロジェクトマネジメントを身につけるためには、プロジェクトマネジメントの知識・実践経験・ノウハウとともに、プロジェクト活動の背景にある「経営環境」「企業における個人の役割」などを理解する必要がある。プロジェクト活動は、経営からの要求であり経営目標を達成するために行う活動である。また、プロジェクト活動を担う個人の役割と期待も、経営から見て変わってきている。事業基盤を支える要因の一つである「個人の力量」が、大きな役割を担いつつある。

「経営環境」「企業における個人の役割」をしっかり知ることは、プロジェクト活動の足場を作ることでもある。それなくして、顧客の満足を得るプロジェクトマネジメントは成り立たない面がある。顧客ありきのプロジェクトマネジメントがプロジェクトマネジメントの生命である。

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

## 1-1 経営環境の変化

### 2) 組織横断による課題解決



#### ① 全体最適による

- ・ 事業基盤の強化
- ・ 競争優位の確保
- ・ 業務課題の解決
- ・ 意志決定の迅速
- ・ 省力化の実現

#### ② 情報技術の発展による

- ・ 情報基盤の強化
- ・ 取引環境の変化
- ・ 情報活用の促進

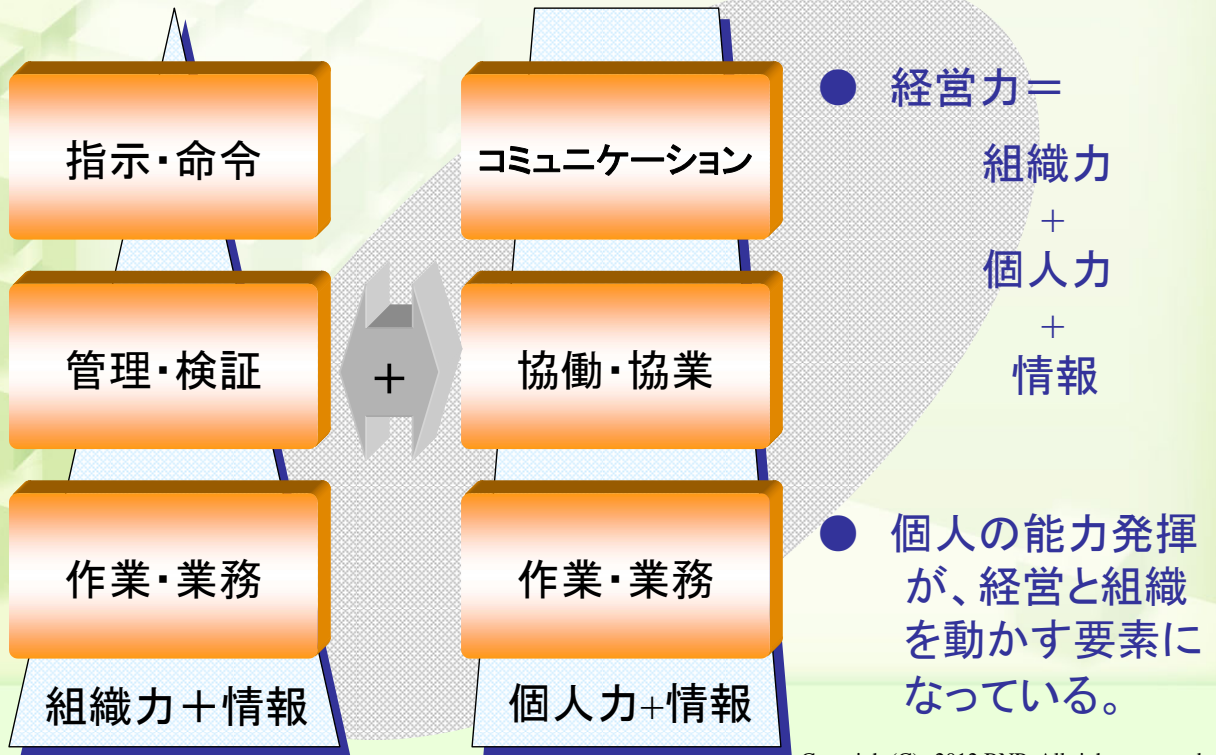
### 企業活動

- ・ 直接活動(原材料の調達から商品を消費者まで届ける活動)  
設計 → 調達 → 製造 → 販売 → 物流
- ・ 間接活動(直接活動を生み出したり、コントロールする活動)
  - － 総務・人事
  - － 財務・経理
  - － 企画・開発・研究
  - － 情報サービス
  - － 顧客サービス

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

## 1-1 経営環境の変化

### 3) 経営力の増強



3

Copyright(C) 2012 BNP. All rights reserved

コミュニケーションというのは、お互いの話を通じて、相手の言いたいことが分かると同時に、自分のことが分かるという点です。逆に言うと、自分のことが分からないと、相手のことも分からない。

人のことが分かるには、相手をよく観察する目が必要です。その人への関心、好奇心がないと、人のことは分からない。分かろうとする努力もいる。

仕事でも人間関係でも、好奇心が原動力。「こんなことをやって何になる」と言っているようでは、いい結果は出ません。

(「個性とコミュニケーション」養老孟司 朝日新聞)

自社のコミュニケーションのあり方を鏡として、顧客の会社のコミュニケーションを見ることも勉強の一つになる。良く見える面と悪く見える面がある。

## 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

### 1-1 経営環境の変化

#### 4) 強い企業の特徴

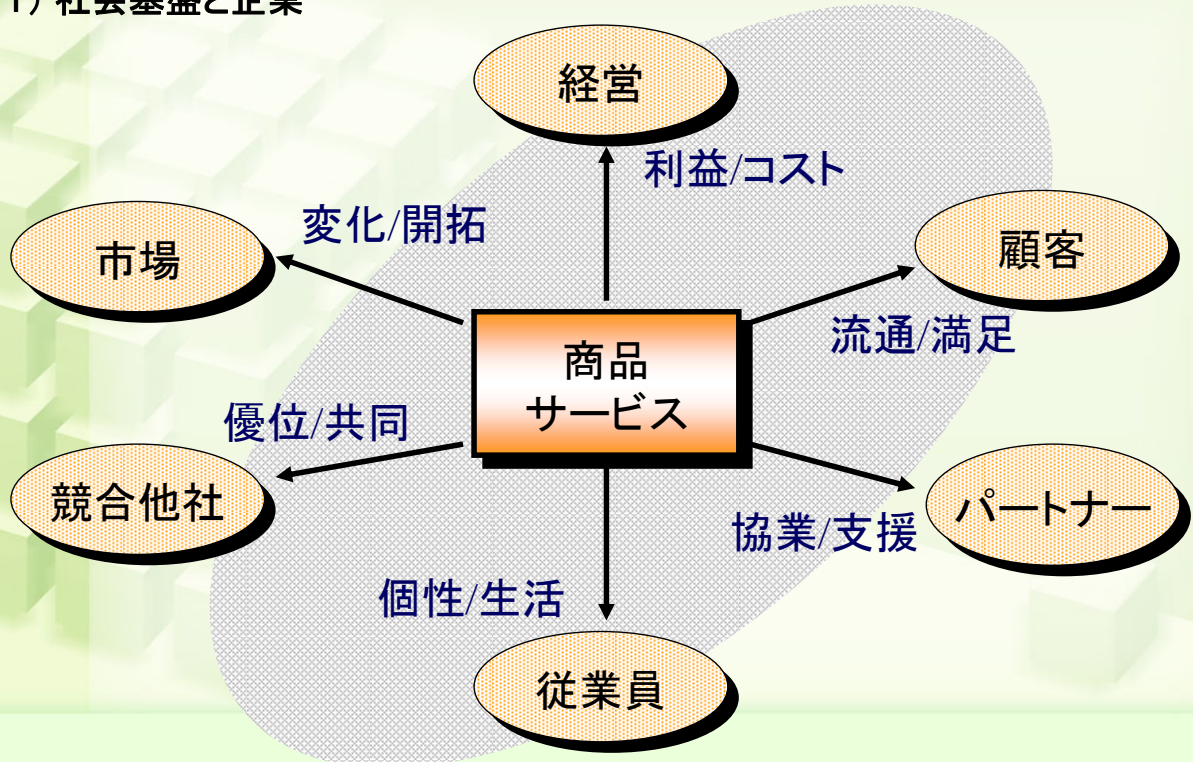
- 経営ビジョンの下に社員が使命感を持っている
- 人を中心に据えて、人と組織が成長する文化がある
- 長・中期計画が有り、自社の強みを活かす方針がある
- 計画立案が社員の参加・参画型になっている
- 経営者・管理者・一般者での情報共有が出来ている
- 情報システムが事業基盤として定着・活用されている

強い企業創りの一つに情報システムの活用があり、良き情報システム創りのために、プロジェクト活動がありプロジェクトマネジメントがある。  
プロジェクト活動を通して、顧客の特徴(強み・弱み)を学ぶことは、プロジェクトマネジメントに磨きをかけることになる。

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

## 1-2 企業の存立

### 1) 社会基盤と企業



5

Copyright(C) 2012 BNP. All rights reserved

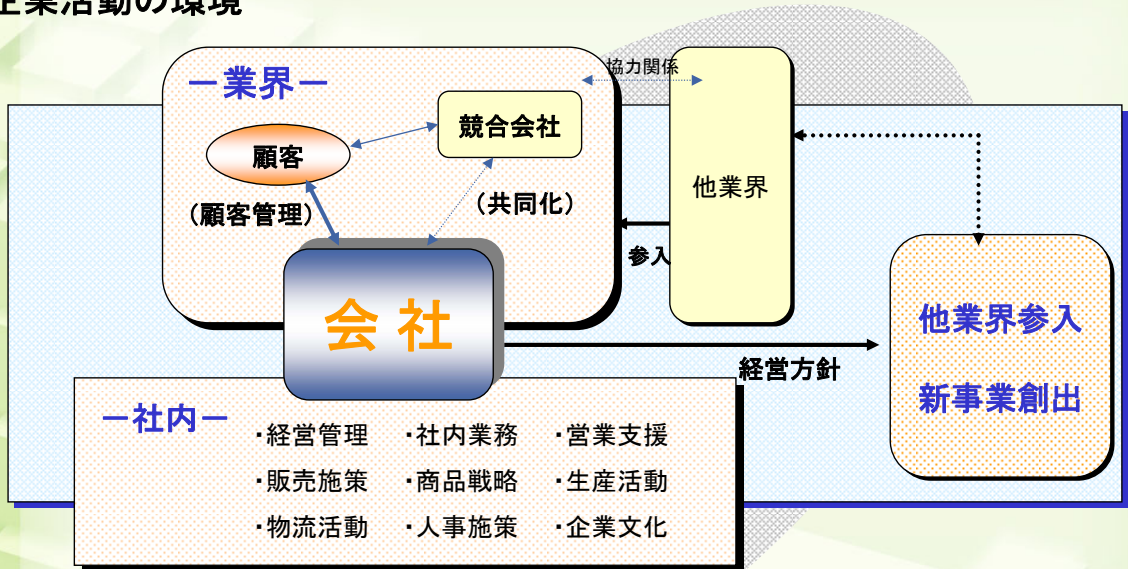
これまでの大量生産・大量消費によって物質的豊かさをもたらしてきた「工業社会」ですが、その反面では環境やエネルギー、資源、産業廃棄物、安全、安心、健康、福祉、教育、人権など、「工業社会の忘れ物」と呼んでいる地球レベルでの課題が未解決のまま取り残されてきました。これからは、その「工業社会の忘れ物」を取り戻す、すなわち、解決していくことが大きな社会ニーズとして顕在化し、心の豊かさ、人間らしい生き方の追求が高まるにつれ、工業社会で重視されてきた効率性や経済的価値の追求が相対的に小さくなっていくと考えられます。そして、「個人と社会」「自然と人間」「効率と創造」「人間と機械」など、これまでは対局軸にあって相対する二つの価値観が最適なバランスを保つ「最適化社会」が到来すると考えます。

(「働きがいをつかんで生きよ」立石義雄 朝日新聞)

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

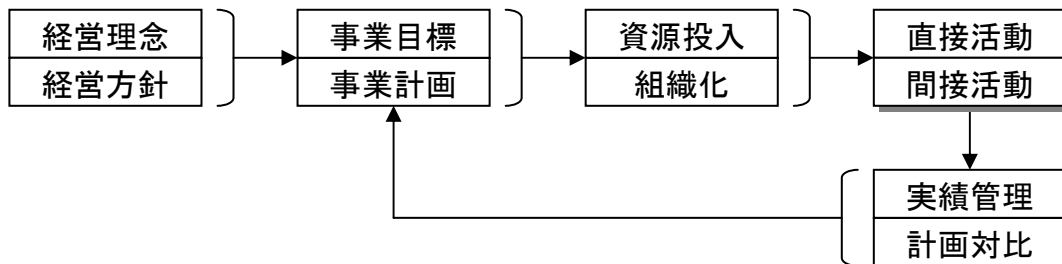
## 1-2 企業の存立

### 2) 企業活動の環境



- ・ 業界内及び業界間の流通取引の進展、改定、共同化
- ・ ソフトウェア志向(管理向上、情報活用、業務改善)
- ・ 経営方針の具体策として情報武装を重視

### 企業の活動サイクル

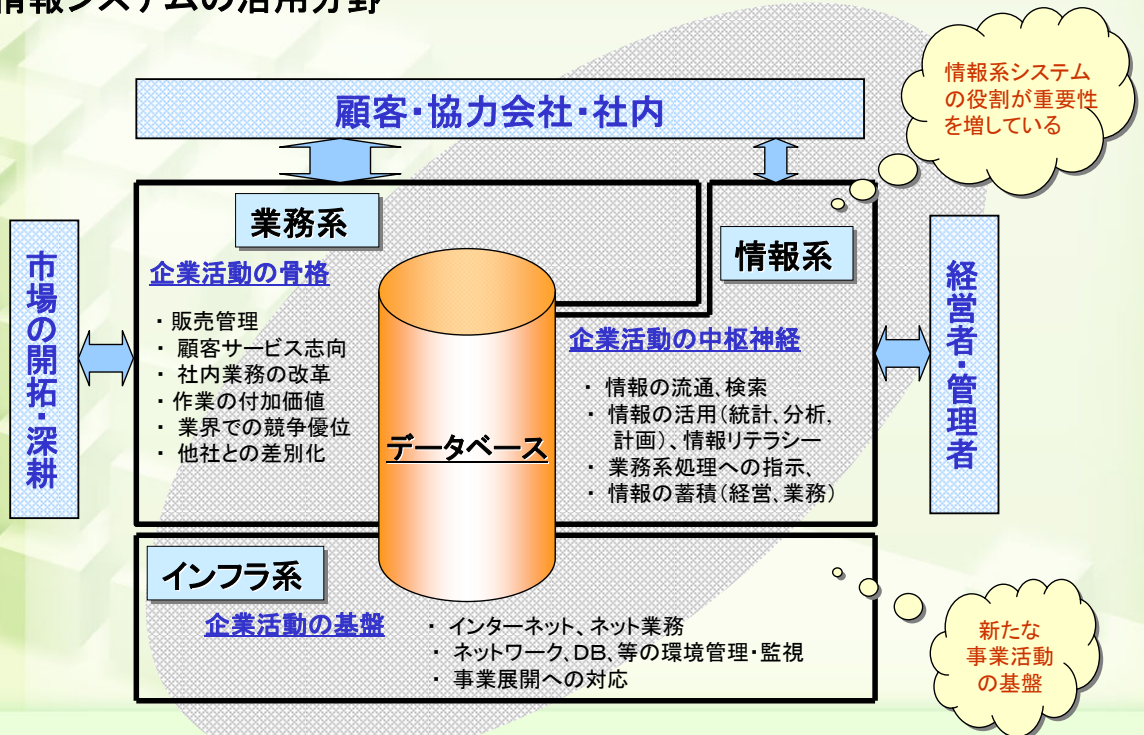


企業環境がどこにあり、経営としてどこに経営の羅針盤をおいているかを理解することは、プロジェクトマネージャーにとっては、基本的な素養である。

# 第1章 プロジェクトマネジメントの背景

## 1-2 企業の存立

### 3) 情報システムの活用分野



### 情報システムの利用変遷

	1980年代	1990年代	2000年代
コンピュータ	汎用機・オフコン	パソコン普及	パソコン一般化
処理形態	バッチ処理	リアル・バッチ処理	リアル処理
コンセプト	EDP・MIS	OA・SIS・ERP	IT・EUC・SCM
利用目的	事務合理化	業務改革	事業基盤
データ活用	特定分野	先進ユーザ	一般ユーザ普及
ユーザ	お客様	お客様から脱皮	当事者
運用主体	情報処理部門	情報処理部門・ユーザ	ユーザ・アウトソーシング

このような歴史を踏まえて、顧客がどこに力点をおいて情報システムの構築をするのかをしっかりと理解することが大事である。